

(客土をしている場合でも条件があります。詳しくは普及センターまでお問い合わせください。)

ハルガヤとは

MFTと同じくイネ科雑草で、収量・栄養価が低いです。MFTより出穂・開花が早いうえ、埋土種子の生存年数も5年以上と長いです。加えて特にチモシーの発芽を阻害する化学物質（クマリン）を生成するやっかいな雑草です。



写真4 ハルガヤ優占草地（5月中旬）

かんたんな見分け方（詳しくは普及センターまで）

5月の中旬に開花してからは、遠目に見ても茶色になっていることが分かります（図2,写真4）。イグサも遠目だと茶色に見えるため、近づいて穂の形で判別してください（写真5）。



写真5 開花後のハルガヤ

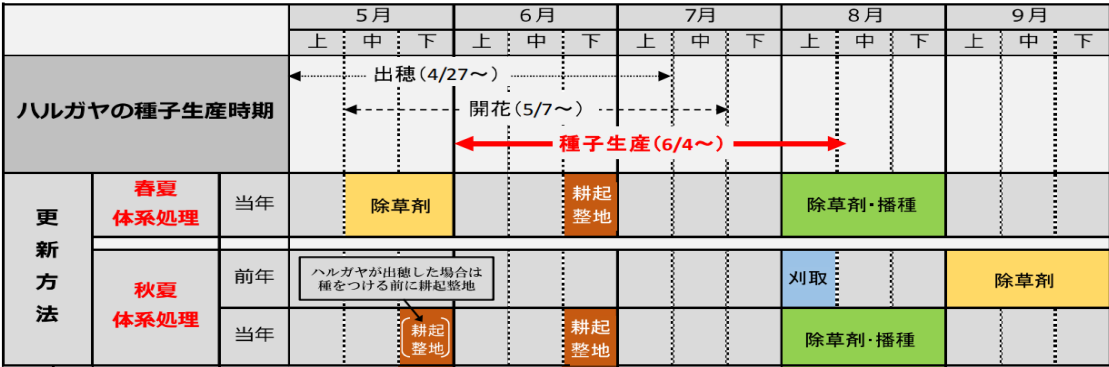


図2 ハルガヤの生育期節および低減対策（道総研「草地雑草『ハルガヤ』の低減対策」より引用

対処方法

○草地に入れないために

MFT同様、ハルガヤが侵入している草地は最後に収穫する、あるいは、作業後に作業機を洗浄する、など種子を他のほ場に拡散させない対策を行ってください。

○侵入したハルガヤの駆除方法（飼料生産の環境に応じてA、Bの順に選んで下さい）

- A：飼料用トウモロコシを数年作付け、アトラジンによる茎葉処理を行う。
- B：ハルガヤの種子が付かないタイミングで、除草剤散布・耕起を行い、播種床処理を行ったうえで播種する（図2）。

※他にも注意点などありますので、詳しくは普及センターまでご連絡ください。



当センターHPも
ご参照下さい

おわりに

いずれの雑草も、主体草種が旺盛に生育していれば侵入リスクは低くなります。特に客土をしていない泥炭のほ場だと、グリホサート系除草剤の播種床処理が推奨されていないため、一度侵入を許すと駆除が難しいです。

石灰資材施用・施肥・収穫などの作業を適切に行い、植生を悪化させず、主体草種を元気に保つ管理を行ってください。